

CO₂等温室効果ガス排出削減目標について 日本初 SBT ネットゼロ認定を取得

三菱地所株式会社（以下、「三菱地所」）は、脱炭素社会の実現に向けて2022年3月に制定した新たなCO₂等温室効果ガスの排出削減目標^{※1}について、SBTi（The Science Based Targets initiative）より、SBT ネットゼロ（science based targets）の認定を取得したことをお知らせいたします。

これにより、三菱地所グループのスコープ1、2の2030年迄の排出削減目標が1.5度シナリオ脱炭素経路に整合したものであり、スコープ1、2、3全体を含めた2050年迄の排出削減目標がSBTiのネットゼロ新基準に合致したものと認められたこととなります。

なお、SBTiが昨年10月に発表したネットゼロ新基準に沿ったSBT認定の取得は全ての業種を通じて日本初です。

■2022年3月に制定した新たな排出削減目標とネットゼロ宣言

基準年 2019 年度の総排出量に対して、自社グループのバリューチェーン内で以下の通り総量を削減

2030 年度までに スコープ 1、2 の合計を 70%以上、スコープ 3 を 50%以上削減

2050 年までに ネットゼロ達成

（スコープ 1、2、3 とも 90%以上削減。残余排出量は中和化^{※2}。）



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

SBTi（The Science Based Targets initiative）

SBTiは、WWF、CDP（旧カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）、世界資源研究所（WRI）、国連グローバル・コンパクトによる共同イニシアティブです。企業に対し、気候変動による世界の平均気温の上昇を産業革命前と比べ1.5度に抑えるという目標に向けて、科学的知見と整合した削減目標を設定することを推進しています。

CO₂等温室効果ガス排出削減目標の進捗としては、丸の内・首都圏の保有ビルを中心とする再生可能エネルギーの導入などにより、2021年度のスコープ1、2を合計した排出量が2019年度比で34.5%削減となりました。

三菱地所グループでは、ESG（「Environment：環境」「Social：社会」「Governance：企業統治」）先進企業として社会課題の解決に積極的に取り組んでおり、引き続き事業活動を通じて、脱炭素社会だけでなく持続可能な社会の実現を目指します。

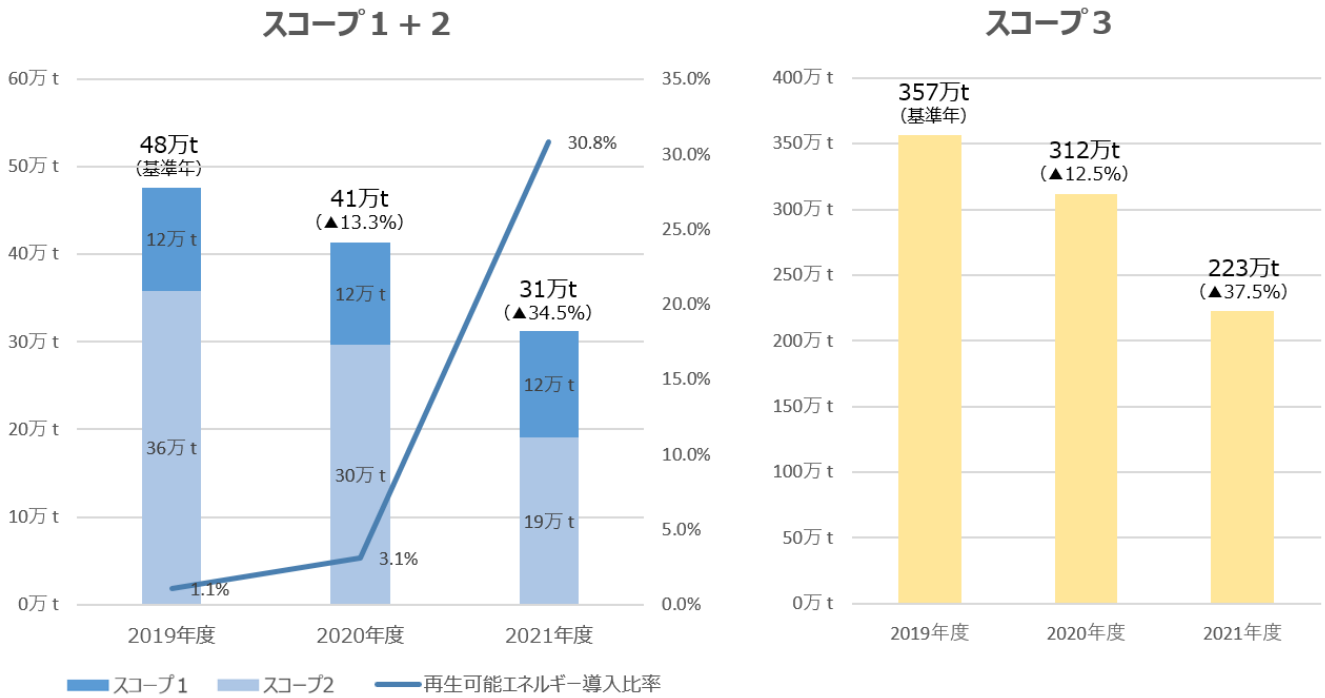
※1 新たなグループ全体のCO₂等温室効果ガス排出削減目標制定と、SBTiが新たに制定した基準に則り2050年ネットゼロを宣言プレスリリース：https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec220309_netzero.pdf

※2 2050年段階で自社グループのバリューチェーン内で削減できない排出量を「残余排出量」といい、バリューチェーンの外で森林由来吸収や炭素除去技術等を活用して「中和（Neutralization）」することで、ネットゼロとするのがSBTi基準に基づく考え方。

■CO₂等温室効果ガス排出削減の進捗について

三菱地所グループは、2019年度総排出量に対して、2030年度までにスコープ1、2の合計を70%以上、スコープ3を50%以上削減、2050年度までにネットゼロ達成（スコープ1、2、3いずれも90%以上削減。残余排出量は中和化）という目標を掲げておりますが、2021年度の排出量は以下のようになりました。

目標達成に向けて、引き続きグループ内各施設の使用電力の再生可能エネルギー由来への切り替え等に取り組んでおり、今年度の再生可能エネルギー由来電力の導入比率は50%程度に達する見込みとなっています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



▲今回の取り組みに関連するSDGs目標

以上